

平成27年度豊かなむらづくり全国表彰事業

近畿農政局長賞

農事組合法人 黄瀬営農組合（滋賀県甲賀市）



黄瀬集落周辺



食育畑の収穫体験

（概 要）

（１）むらづくりの動機・背景

平成に年号が改められたころより、農業を担っていた世代の高齢化が進み耕作が困難な農地が見られるようになり、担い手農家もなく耕作放棄地が出現しつつあった。

耕作放棄地と畦畔の雑草繁茂により、集落景観はこれまでの美田が損なわれつつあると共に、農業機械の高額化も進み機械更新も困難となっており、先行きを不安視する声が多く出されるようになってきていた。

集落の活動についても、農業活動が衰退するにつれて将来への悲観論が多く、集落の活動は停滞していた。

このような中で集落の農地、集落の景観、コミュニティを守るために現状分析やアンケート調査を行い、営農場面では収益確保のための共同化について検討を重ね、平成10年4月より機械作業受託を中心とした集落営農組合が設立された。平成13年からは未整備田のほ場整備を開始し、平成17年度の完成と同時に集団転作に取組み大豆作においては集落農家全体での取組を開始した。

（２）むらづくりの内容

農事組合法人黄瀬営農組合は「21世紀に負の遺産を残さぬために」をスローガンに営農体制の整備に留まらず、農を中心としつつ「むらづくり」を楽しみながら活動しており、水田を活用した様々な露地・施設野菜を栽培し女性・高齢者の活躍の場を設けると共に、小学校の通学路に「食育畑」（学校給食用野菜を生産する畑）を設置し、この畑からとれた野菜を継続的に学校給食に供給して地産地消に協力している。また、地元の子供会や近隣小学校に呼びかけ、野菜の収穫体験や親子料理教室を開催し、食の大切さと集落に「農業」があることを子供たちに知る機会を提供している。

耕作放棄地や水田畦畔の雑草繁茂により集落の景観が損なわれるのを、営農体制を確立することで防ぐと共に、畦畔や市道法面へのグランドカバープランツの植栽を進め、美しい集落の景観を次世代に残すことに貢献している。